

12

構造体補正強度 (N/mm²)
○ 標準仕様書[表6.3.2]
・ ()

13

暑中コンクリート
構造体補正強度 (N/mm²)
○ 6 (適用期間は三重県生コン協会の指針による)
・ ()

14

寒中コンクリート
適用期間及び構造体補正強度
○ 6 (適用期間は三重県生コン協会の指針による)
・ ()

15

型枠
1) 材料
○ 複合板 (厚み (mm))
○ 12
・ ()
・ ()
2) 打増厚さ (mm)
仕上面
○ 20
・ 25
・ 30
・ ()
その他
・ 各伏図、軸組図による
・ デッキプレートのかかりしろとなる部分 10mm
3) 誘導目地、打継目地、化粧目地の位置、形状、及び寸法
○ 意匠図
・ 構造図
4) フラットデッキ
・ 使用する
○ 使用しない
5) スリーブの材種
○ 鋼管
○ 硬質ポリ塩化ビニル管
・ 溶融亜鉛めっき鋼板
・ つば付き鋼管
○ 鋳チューブ
・ ()
【スリーブに紙チューブを使用した場合、型枠取外し後に取除く】
5) スリーブの規格等
○ 標準仕様書[表6.8.1]
・ ()
6) 普通エコセメント使用の場合の型枠最小貯置期間及び取外し
・ ()
7) その他
・ 断熱材の使用
・ MCR工法用シート

16

せき板及び支柱の在置期間 (普通ボルトランドセメントの場合)

	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁 下
コンクリートの材齢による場合	15℃以上	3 日	1 7 日
	5℃以上	5 日	2 5 日
	0℃以上	8 日	2 8 日
圧縮試験による場合	5 N/mm ²	0. 8 5 F c または 1 2 N/mm ²	設計強度

コンクリート打込中及び打込後5日間はコンクリート温度が2度を下回らないようにし、かつ、乾燥、振動等によってコンクリートの凝固及び硬化が妨げられないように発生すること

17

耐震スリット

1) 既成品の使用
・ 有 (大臣認定品)
・ 無
2) 耐火性能
・ 有
・ 無
3) 形状、設置箇所
・ 構造図による
・

8 7

鉄骨工事

1

製作工場、施工管理技術者
1) 鉄骨製作工場
国土交通省大臣認定 (グレード)
・ S
・ H
○ M
○ R
・ J
2) 施工管理技術者
○ 適用する
・ 適用しない
3) 床書き原寸図
・ 作成する
○ 作成しない

2

材種及び使用箇所

規 格 名 称	鋼 材 名	柱	通し ダイア	内ダイア	梁	斜 材	間 柱	間接 母屋
一般構造用圧延鋼材 (J I S G 3 1 0 1)	○SS400	・				○	○	
溶接構造用圧延鋼材 (J I S G 3 1 0 6)	・ SM400A	・ SM490A						
	・ SN400A	・						
建築構造用圧延鋼材 (J I S G 3 1 3 6)	○SN400B	・ SN490B				○		
	・ SN400C	○SN490C						
一般構造用角形鋼管 (J I S G 3 4 6 6)	○STKR400	・ STKR490	○					○
冷間成形角形鋼管 (MSTL-0141*)	○BCR295	・	○					
(MSTL-0278*)	・ BCP235	・ BCP325						
	・ SHC400B	・ SHC400C						
熱間成形角形鋼管 (MSTL-0051*)	・ SHC490B	・ SHC490C						
一般構造用炭素鋼管 (J I S G 3 4 4 4)	・ STK400	・ STK490						
一般構造用軽量形鋼 (J I S G 3 3 5 0)	○SSC400	・						○

※注 (1) 同等品とする。
(2) 形状、寸法は構造図による。
(3) 特記なき場合、G.H.、T.H.、S.H.は柱、梁、ブレース等と同等以上の工材を使用する。

J I S G 0 9 0 1 による、板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験を
・ 行う
・ 行わない

3

高力ボルト (ボルトの径、縁端距離、間隔、ゲージは構造図による)

高力ボルトの種類		使 用 箇 所
トルシア形高力ボルト (J S S II - 0 9)	○S10T	全般
J I S 形高力ボルト (J I S B 1 1 8 6)	○P10T	トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ形高力ボルト (大臣認定品)	・ F 8 T	母材が亜鉛メッキされている部分

1) すべり耐力等の確認方法
○ 行わない
・ 行う
試験方法等
・
2) J I S 形、ナット回転法かつボルト長がねじの呼びの5倍を超える場合
○ 標準 7. 4 7 (7) による
3) 溶融亜鉛メッキ形高力ボルトを使用した場合の摩擦面の処理
○ プラスト処理 (表面粗度50 μ mR z 以上)
・ リン酸塩処理

4

普通ボルト (ボルトの径、縁端距離、間隔、ゲージは構造図による)
○ 六角ボルト、六角ナット
○ ダブルナット、スプリングワッシャ等による有効な戻止めを行う

普通ボルトの孔径 (母屋または鋼梁の取付)
○ ねじの呼び径±10mm
・

5

アンカーボルト (ボルトの径、縁端距離、間隔、ゲージは構造図による)

1) 材質
・ D295A
・ SD345
・ SD390
・ SD490
・ SS400
・ SS490
・ SNR400 (・ ABR400
・ ABS400)
・ SNR490 (・ ABR490
・ ABS490)
・ ABR: J I S B 1 2 2 0 構造用転造両ネジアンカーボルトセット
・ ABS: J I S B 1 2 2 1 構造用切削両ネジアンカーボルトセット
○ 露出型弾性固定柱脚標準図による
2) 大臣認定柱脚 (メーカー仕様による)
○ 使用する
・ 使用しない
3) アンカーフレーム
○ 使用する (・ 構造図
○ 露出型弾性固定柱脚標準図)
・ 使用しない
4) 二重ナット
○ 適用する
・ 適用しない

6

スタッドボルト

種類	径	長さ (mm)	使 用 箇 所
・ 頭付きスタッド	16 φ	・ 80・100・120・150・	
	19 φ	・ 80・100・120・150・	
・ ネジ付き溶接スタッド	22 φ	・ 100・120・150・	

7

ターンバックル (特記なき場合 J I S 規格品とする)

1) 建築用ターンバックル類
○ 割付式
・ バイプス
2) 建築用ターンバックルボルト
○ 羽子板ボルト
・ 両ねじボルト

8

デッキプレート (単位 mm)

1) 床用
高さ
・ 50
板厚
・ 1. 2
2) 合成スラブ用
高さ
・ 50
板厚
・ 1. 2
・ 1. 6
3) 型枠用
高さ
・ 板厚
・ 形版
タイプ
4) 防錆処理
・ プライマー
・ 亜鉛メッキ (・ Z12
・ Z27)
5) 耐火性能
・ 意匠図による
・ 構造図による
6) 梁との接合方法
・ 焼抜き栓溶接
・ スタッドボルト
焼抜き栓溶接またはスタッドボルトのピッチ
・ 600mm
・ (300) mm

9

スカラップ形状
・ スカラップ工法
○ ノンスカラップ工法

10

継手

	柱	梁
フランジ	・高力ボルト ・現場溶接	○高力ボルト ・現場溶接
ウェブ	・高力ボルト ・現場溶接	○高力ボルト ・現場溶接

11

仮組
・ 行う
○ 行わない

12

溶接一般

1) 溶接材料
アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。
ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものをとする。

2) 溶接手法及び管理
使用する溶接ワイヤ、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の管理技術者により管理を行うこと。

3) エンドタブ
材料
○ 固形エンドタブ
○ 鋼製エンドタブ
鋼製エンドタブは
・ 切断する (・ すべて
・ 見掛りのみ
・)
○ 切断しない
切断面の仕上
・ 標準仕様書[7. 6. 7 (1) (b) ②後段]
・ 図示 ()

4) 技量付加試験
溶接作業における技能資格者の溶接作業の技量付加試験は
・ 行う
○ 行わない

5) 開先形状
○ 溶接基準図による

6) 鋼製エンドタブに代わるその他の工法については、代替エンドタブ (セラミックタブ又はフラックスタブ) を用いたものとし、工法の採用にあたっては、以下の項目を満足することを条件とし、監理者または監督員の承認を受けること。
・ 相当数の代替エンドタブによる溶接を行ったことがある工場の製作であること。
○ 溶接技能者がWJ法日本エンドタブ協会による固形タブに係るエンドタブ施工講習終了者 (溶接技能者・A級以上)、又は経検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とする。
・ 溶接技能者がA級定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とする。

7) 板厚が異なる場合の突合せ継手溶接部
・ 有 (図面番号:)
○ 無

13

溶接部の検査 (受入検査)
○ 行う
・ 行わない

1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者 (元請) との直接的による
2) 第三者検査機関は (注) 日本溶接協会によるC1W検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の設備製作工場の社内検査を行っていない事業者とする
3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とする
4) 外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「J A S S 6 付則」鉄骨精度基準による
5) 超音波探傷検査は母材厚6mm以上の突合継手を対象とし、合格判定は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」による
6) 溶接部の外観検査は全数検査とする
7) 工事溶接に対し第三者検査機関による超音波探傷検査箇所数は平均出検品異常率 (AOQL) ・ 2. 5 %
○ 4. 0 % による検査水準は
・ 第1水準
・ 第2水準
・ 第3水準
・ 第4水準
・ 第5水準
○ 第6水準とする

AOQL (%)	検査水準	第1水準	第2水準	第3水準	第4水準	第5水準	第6水準
2. 5	60	70	80	100	130	190	
4. 0	70	80	90	110	150	220	

サンプルの大きさは20とし、ロットの合格判定は下表による。

AOQL (%)	第一合格欠陥箇所数	第一不合格欠陥箇所数	第二合格欠陥箇所数	第二不合格欠陥箇所数
2. 5	0	2	1	2
4. 0	0	3	3	4

1 回目の不合格欠陥箇所数がある場合はそのロットを合格とし、第一不合格欠陥箇所数以上の場合不合格とする
第一欠陥箇所数未満の場合は2回目の抜き取り試験を行い、合計の不合格欠陥箇所数が第二合格欠陥箇所数以下の場合は合格とし、第二合格欠陥箇所数以下の場合は不合格とする
合格ロットはそのまま受入、不合格ロットは残り全数を試験し、いずれの試験でも、検出された不合格の溶接部はすべて補修を行い再試験する
8) 現場溶接の場合は第三者機関による検査を100%行う
9) ずれ、食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突合せ継手の食い違い仕口の検査・補修マニュアル」等を参考にする

14

錆止め塗装 (耐火塗料を使用する場合、認定による錆止めを行う)

1) 錆止め塗料、素地ごしらえ

適用箇所	塗 料	塗付量 (kg/㎡)	標準膜厚 (μm)	素地ごしらえ	備 考
室外・室内					
・	○ 鉛、クロムフリーさび止めペイント (1 種)	J I S K 5 6 7 4	0. 1 0	30	・ A 種 ・ B 種 ○ C 種 ・ B 種
・	鉛、クロムフリーさび止めペイント (2 種)	J I S K 5 6 7 4	0. 1 1	30	・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ B 種
・	水系さび止めペイント	J A S S 1 8 M - 1 1 1	0. 1 1	30	・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ B 種
・	D P 塗装部 (下塗り1回目) ジンクリッチプライマー (2 種) (下塗り2回目) 構造物用さび止めペイント (A 種) (下塗り3回目) 構造物用さび止めペイント (A 種)	J I S K 5 5 5 2 J I S K 5 5 5 1 J I S K 5 5 5 1	0. 1 4 0. 1 4 0. 1 4		重量鉄骨 ・ B 種 軽量鉄骨 ・ A 種 ・ C 種

※注 (1) D P 塗装の場合は塗布量による管理、その他については膜圧による管理を行うこと。
(2) 特記なき場合、次の場所以外はすべて塗装する。
1. コンクリートに密着または埋込まれる部分
2. 高力ボルト摩擦接合部の摩擦面
3. 密閉される閉鎖断面の内面
4. ビン、ローラー等密着する部分及び回転または摺り面で削り仕上げした部分
5. 組立によって肌合わせとなる場合

15

溶接部

1) 種類
・ 2 種HDZ 5 5
・ 2 種HDZ 4 5
・ 2 種HDZ 3 5
2) 錆止め塗料
・ 行う
・ 行わない

適用箇所	塗 料	塗付量 (kg/㎡)	標準膜厚 (μm)	素地ごしらえ	備 考
室外・室内					
・	・ 一液形変成エポキシ樹脂さび止めペイント	J P M S 2 8	0. 1 0	30	・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ B 種
・	・ 変成エポキシ樹脂プライマー	J A S S 1 8 M - 1 0 9	0. 1 4	40	・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ B 種
・	・ 水系さび止めペイント	J A S S 1 8 M - 1 1 1	0. 1 1	30	・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ B 種

3) ボルト接合部
摩擦面の処理
すべり耐力等の確認方法
施工管理技術者
技能資格者による締付け作業
・ プラスト処理 (表面粗度50 μ mR z 以上)
・ 行わない
・ 行う
・ 適用する
・ 適用しない
・ 適用する
・ 適用しない

4) 検査
膜圧検査
外観検査
・ 行う
・ 行わない
・ 行う
・ 行わない

16

耐火被覆
・ 厚み及び材質は (・ 意匠図
・ 構造図) による

17

アンカーボルト等の設置 (材料は 5 アンカーボルト による)

1) 役割
○ 構造用
・ 建方用
2) 保持及び埋込方法
主要構造部
○ A 種
・ B 種
その他部位
・ A 種
○ B 種
【保持及び埋込方法がA種の場合のアンカーフレームは、アンカーボルトのサイズに相応した、形鋼などにより製作し、アンカーボルトの位置および形状が確保できるものとする】
3) 柱底均しモルタル種類
○ A 種
○ B 種
4) 柱底均しモルタル厚み
・ 50mm
○ 30mm
5) 無収縮モルタルの材料及び割合
・ 標準仕様書 [7. 2. 9] (b)
○ 露出型弾性固定柱脚標準図
6) 無収縮モルタルの試験
圧縮強度試験
○ 行う
・ 行わない
J ロット試験
○ 行う
・ 行わない

18

軽量形鋼構造

1) 接合部 (ボルト接合の場合)
○ 普通ボルト

令第129条の2の4、5の事項 ※ 設計が該当する場合には、□にチェックを記入する。

建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

☒

建築設備 (昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。

☒

屋上から突出する水櫃、煙突、冷却塔その他これらに類するもの (以下「屋上水櫃等」という。) は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

☐

煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支持を設けたものを除き、90 c m 以下とすること。

☐

煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さは5 c m 以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25 c m 以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

☒

建築物に設ける給水、排水その他の配管設備 (給湯設備 (建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水櫃等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの) を除く。) は、
・ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
・ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

☒

管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

☒

管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

☐

法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水櫃等にあつては、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

☒

給湯設備*は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
満水時の質量が15 k g を超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。

特記事項

一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号

代表設計者
一級建築士
第320204号
前野 将輝

設計担当
一級建築士
第378328号
加藤 早紀

設計担当
一級建築士
第360917号
前田 祐作

設計担当

設計担当

設計担当

法適合確認

工事名称
川越町ボランティア施設 (仮称) 建設工事 (建築工事)
図面名称
構造特記仕様書No.2
縮尺
A1: NS
A3: NS

設計日
R05/03/24
図面番号
S02

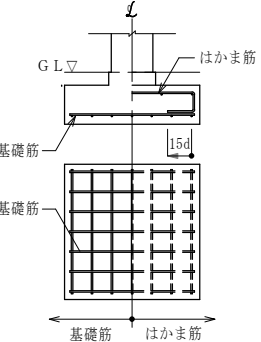
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 No. 2

3-1 基礎の配筋及び杭頭補強の方法

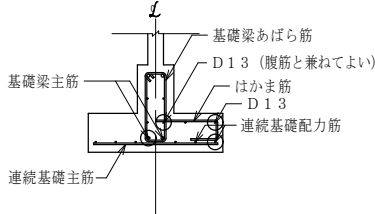
3-1-1 直接基礎

直接基礎の場合の配筋は下図による。

(a) 独立基礎

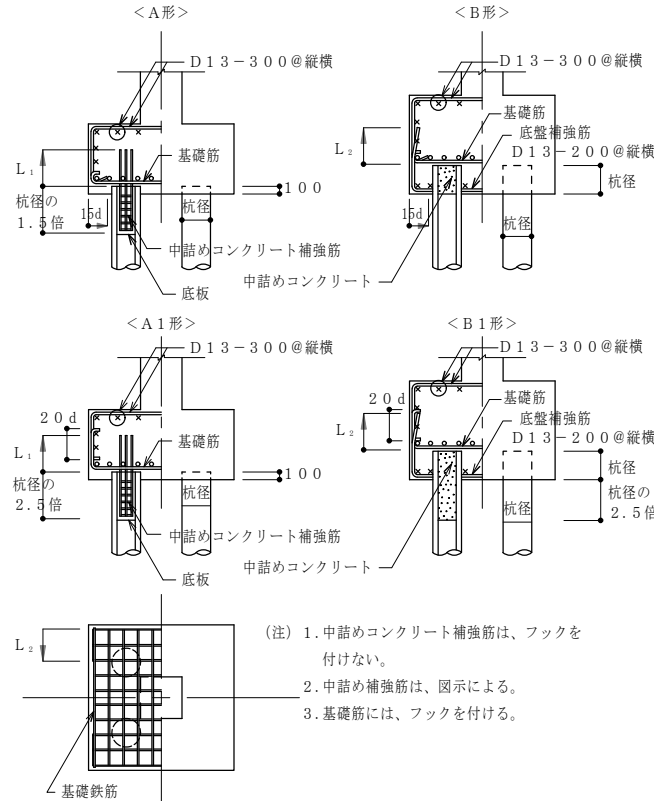


(b) 連続基礎



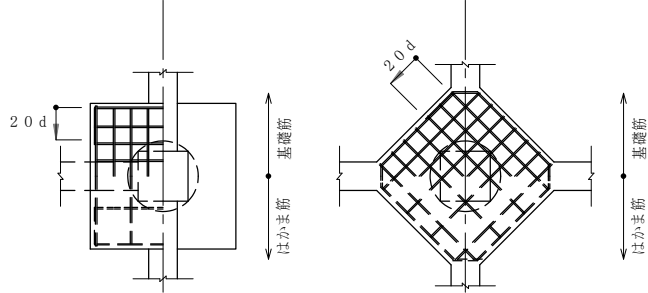
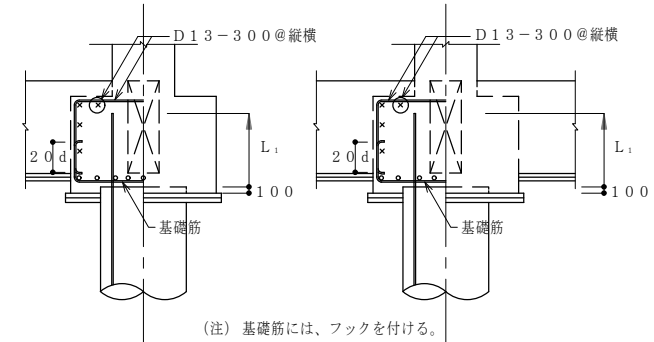
3-1-2 既製コンクリート杭基礎

既製コンクリート杭の杭頭補強の方法は、下図のA形、B形又は、A1形又はB1形とし、適用は特記による。なお、中詰めコンクリートは基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。



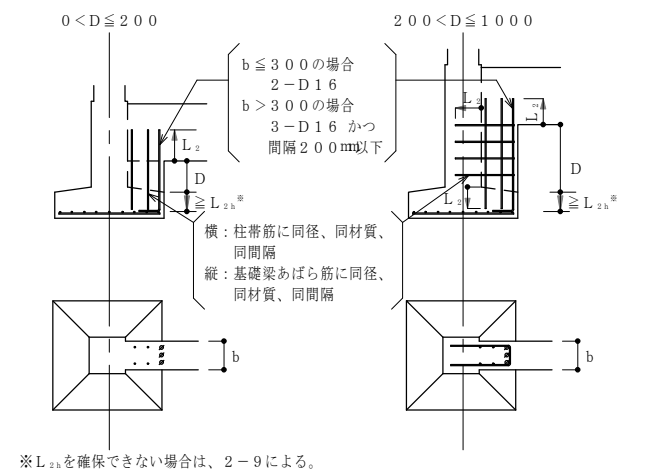
3-1-3 場所打ち杭基礎

場所打ち杭基礎の配筋は、下図による。



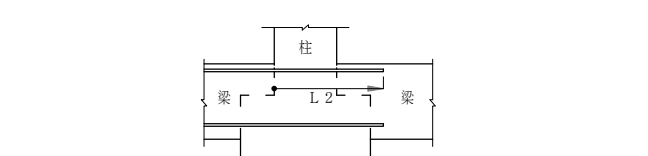
3-2 基礎接合部の補強

基礎接合部の補強配筋は下図による。



4-1 基礎梁主筋の継手及び定着

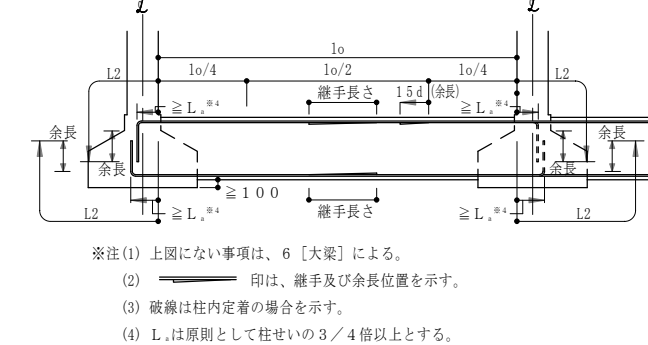
(a) 上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる。
(b) 梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。
(c) 梁筋を柱内に定着する場合は、柱の中心軸を越えてから定着させる。



4-2 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

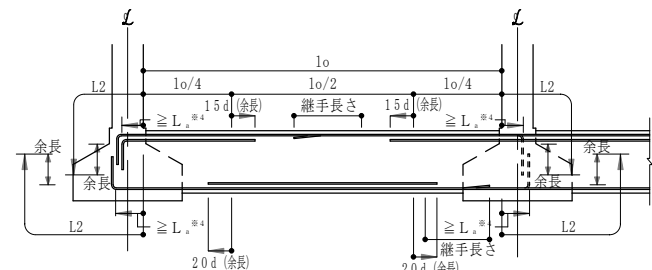
4-2-1 基礎梁にスラブがつかない独立基礎

基礎梁にスラブがつかない独立基礎の場合は下図による。



4-2-2 基礎梁にスラブがつく独立基礎

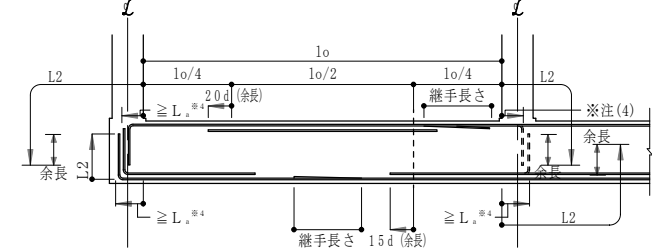
基礎梁にスラブがつく独立基礎の場合は下図による。
ただし、耐圧スラブがつく場合は、4-2-3による。



※注(1) 上図にない事項は、6 [大梁] による。
(2) 印は、継手及び余長位置を示す。
(3) 破線は柱内定着の場合を示す。
(4) L_2 は原則として柱せいの $3/4$ 倍以上とする。

4-2-3 連続基礎及びべた基礎

連続基礎及びべた基礎の場合は下図による。

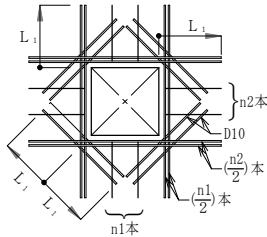


3/24	
5	

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 No. 4

7-5 スラブ開口部の補強

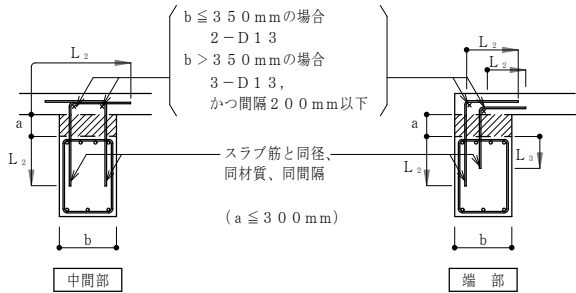
スラブ開口部の補強は図示による。図示がなければ下記による。
(a) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、下図により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 (L=2L₁) シングルを上下筋の内側に配筋する。



(b) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

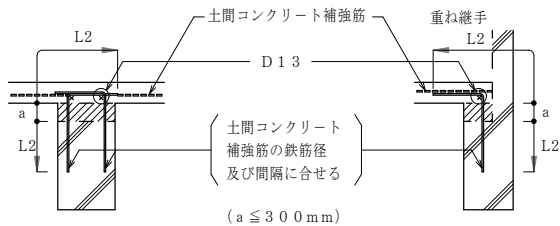
7-6 土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、下記による。ただし、土間スラブとは、土 (捨てコンクリート等の場合を含む) に接する構造スラブをいう。

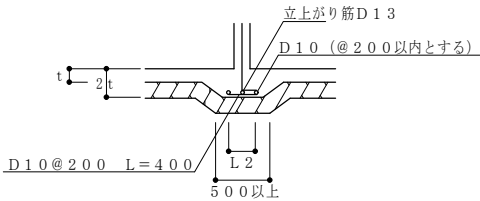


7-7 土間コンクリートの補強筋

(a) 土間コンクリートの補強筋 (土間配筋) は設計図による。
(b) 基礎梁との接合部は下図による。

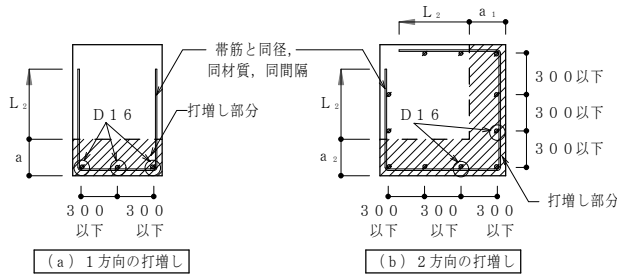


(c) 雑壁下に基礎梁 (基礎小梁を含む) がない場合、特記なき限りは下図による。



8-1 柱の打増し補強

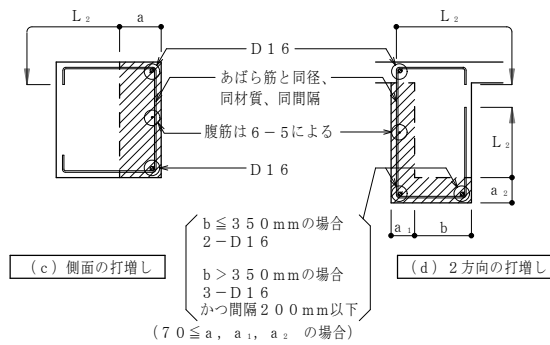
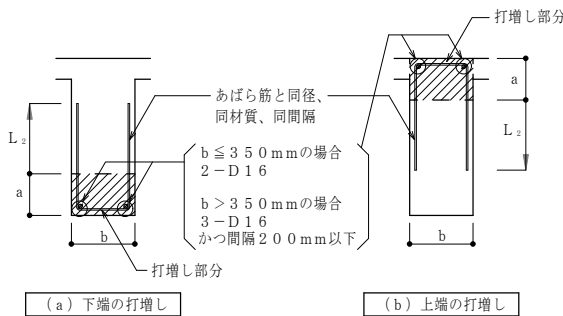
柱の打増し補強は、下図により、打増し幅が70mm以上の場合に適用する。
なお、梁及び耐力壁の鉄筋の定着長は、打増し部分を除いて算定する。



(70 ≤ a, a₁, a₂ ≤ 200 の場合)

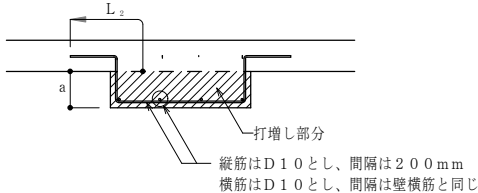
8-2 梁の打増し補強

梁の打増し補強は、下図により、打増し幅が70mm以上の場合に適用する。
なお、小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長は、打増し部分を除いて算定する。



8-3 壁の打増し補強

壁の打増し補強配筋は下図により、打増し厚さaが50mm以上に適用する。



9 コンクリートブロック帳壁

9-1-1 一般事項

- (a) 主筋は、原則としてブロック中心部に配筋し、構造体に定着する。
なお、主筋には継手を設けてはならない。ただし、両面5d以上又は片面10d以上のアーク溶接を行う場合は、継手を設けることができる。
- (b) 壁横筋は、壁端部縦筋に180°フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着させるか、直交壁の横筋に重ね継手とする。
- (c) 壁鉄筋の重ね継手長さは40dとし、定着長さは下記による。
- (1) 帳壁配筋の構造体部分への定着長さは25dとする。
ただし、係員の承諾を受けて、あと施工アンカーとすることができる。
- (2) (1)以外の定着長さは40dとする。
- (d) ブロック積みのスパン及び高さは、下記による。

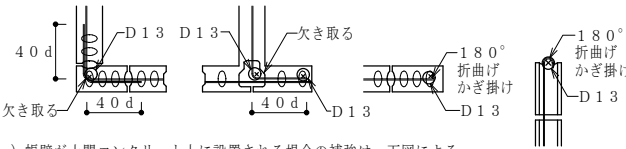
ブロック厚さ	スパン及び高さ
100	2500
150	3500

9-1-2 各部の配筋

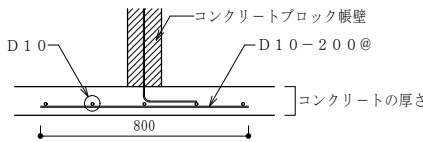
(a) 壁の配筋は設計図による。ただし、設計図に指示がなければ下表による。
<壁の配筋>

縦筋	横筋	開口補強筋 (縦横筋)	端部補強筋
D10@400	D10@400	1-D13	1-D13

(b) 帳壁の交差部、端部 (開口部) の配筋は、下図による。

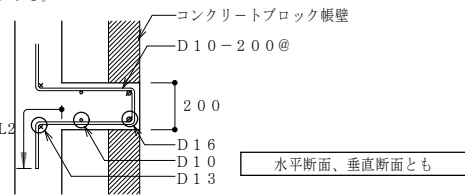


(c) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、下図による。



(d) コンクリートブロック帳壁との取合い

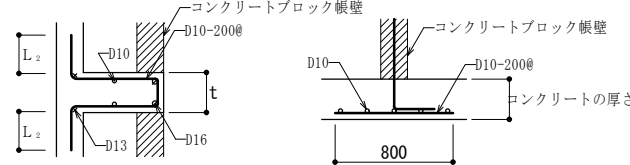
- (1) 控壁の配置は、設計図による。
(2) 配筋は、下図による。



10 コンクリートブロック帳壁との取合い

(a) 控壁の配筋

控壁の配筋は、水平、垂直とも左下図による。

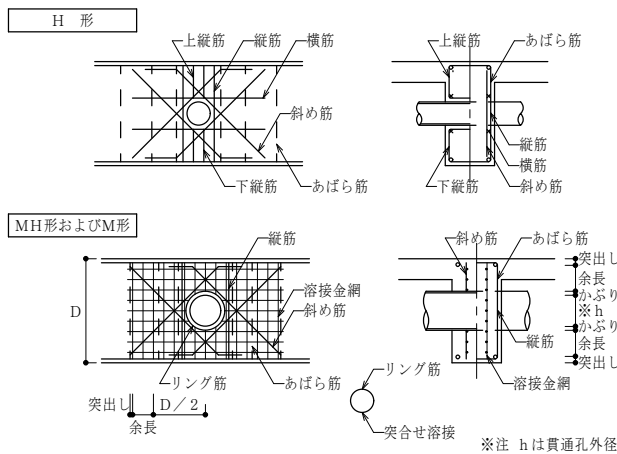


(b) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強

帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は右上図による。

11-1 梁貫通孔の補強 (一般事項)

(a) 梁貫通孔の補強は下記による。
梁貫通孔補強筋の名称等は、下図による。

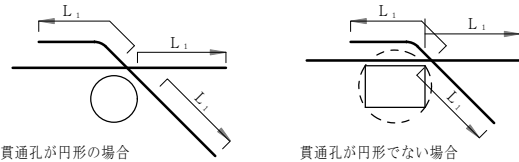


(b) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。

(c) 孔の上下方向の位置は梁せいの中心付近とし、梁中央部か端は梁下端より1/3Dの範囲には設けてはならない。

(d) 孔は、柱面から、原則として、1.5D (Dは梁せい) 以上離す。但し、基礎梁及び壁付帯梁は除く。

- (e) 孔が並列する場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする。
(f) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
(g) 補強筋は主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは下図による。



(h) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略する。

(i) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。

(j) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。

なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。

(k) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

(1) その他、高強度梁貫通補強筋を使用する場合は、大臣認定または日本建築センターの技術審査証明を受けた工法とすること。

15-2 補強の形式と種類

補強形式は下表により、配筋種別は設計図 (または、下表) による。

15-2-1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

※注 ー ー は一般部分のあばら筋を示す。

15-2-2 M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	リング	配筋図
M1	2-2-D13	なし	なし	
M2	4-2-D13			
M3	4-2-D13	2-6φ@100	13φ	
M4	6-2-D13			

※注 ー ー は一般部分のあばら筋を示す。

15-2-3 MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	リング	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	なし	
MH2		2-2-D13			
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ@100	13φ	
MH4	4-2-D13				
MH5	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ@100	13φ	
MH6	4-2-D16				
MH7	4-2-D19				

15-2-4 補強配筋種別と使用部位・数量

階	梁記号	スリーブ外径	補強配筋種別	スリーブ材質	数量
※ 使用部位、スリーブ外径、数量は設計図による。					
補強配筋種別は、大臣認定または日本建築センターを受けた					
高強度梁貫通補強筋を使用するものとする。					

特記事項	

一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号

株式会社 前野建築設計

管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者	設計担当	設計担当	設計担当	設計担当	設計担当	設計担当
一級建築士 第320204号 前野 将輝	一級建築士 第378328号 加藤 早紀	一級建築士 第360917号 前田 祐作				

法適合確認	工事名称	設計日
	川越町ボランティア施設 (仮称) 建設工事 (建築工事)	R05/03/24
	図面名称	図面番号
	鉄筋コンクリート構造配筋標準図No. 4	S06



角形鋼管

F値295N/mm²以下
□-150×150 ～ □-300×300 用

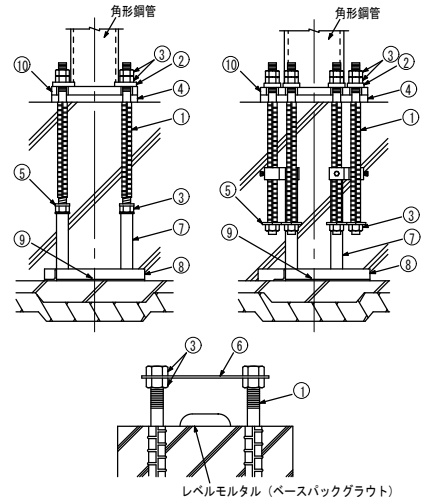
(一財) 日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」 (平成30年9月21日付)

ベースパック柱脚工法設計標準図

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

1. 工法概要

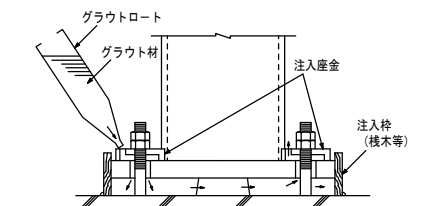
1. 1 構成部材



- ①アンカーボルト
- ②注入座金
- ③Mナット
- ④ベースバックグラウト(グラウト材)
- ⑤定着座金
- ⑥テンプレート
- ⑦フレームポスト
- ⑧フレームベース
- ⑨ステコンアンカー(コンクリートアンカー)
- ⑩ベースプレート

(注) 上記①～⑩の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注) 上記⑨～⑩は現場状況により仕様異なる場合がある。

1. 2 柱脚の定着方法概要



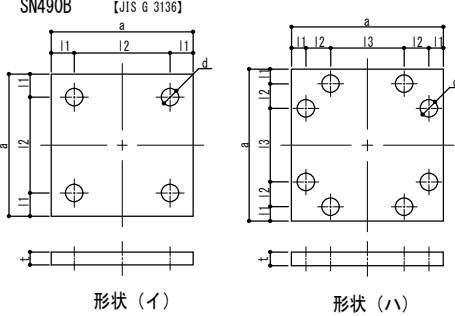
2. 柱

F値(N/mm ²)	鋼種	採用
235	BCP235 STKR400	
295	BCR295 TSC295	○

3. 構成部材・寸法

3. 1 ベースプレート

●材質
SN490B



3. 3 Mナット

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

呼び	A	B	単位 mm
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

3. 4 定着座金

i) アンカーフレーム Aタイプの場合

適用 アンカーボルト	g1	t	d	材質
M27	55	9	28	
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	SS400
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

ii) アンカーフレーム Cタイプの場合

適用 アンカーボルト	g1	g2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	SS400
M33	60	173	9	35	
M36	65	178	9	38	

3. 5 注入座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

記号	適用 アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	18	28
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

3. 2 アンカーボルト (Mアンカーボルト) 【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

i) アンカーフレーム Aタイプの場合

呼び d	異形部 呼び名	L 注1)	X	b 注1)	単位 mm	基準強度 (N/mm ²)
M27	D29	650	45	128	490	
M30	D32	695	45	133	490	
M33	D35	690, 735	45	95, 140	490	
M36	D38	770	60	130	490	
M39	D41	770, 810	60	98, 135	490	

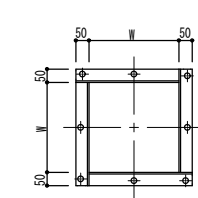
注1) 据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

ii) アンカーフレーム Cタイプの場合

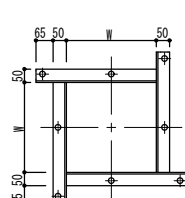
呼び d	異形部 呼び名	L	X	単位 mm	基準強度 (N/mm ²)
M30	D32	695	45	490	
M33	D35	720	45	490	
M36	D38	770	60	490	

3. 6 フレームベース

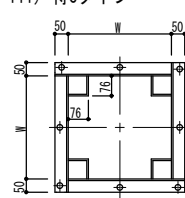
i) Aタイプ



ii) Cタイプ



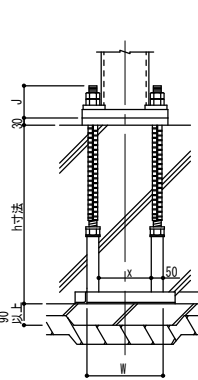
iii) 特Cタイプ



3. 7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

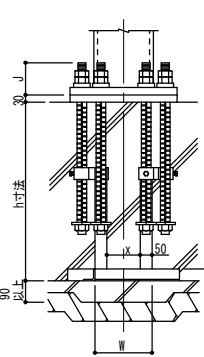
●ベースパックの据付け高さ(h寸法)はフレームベース下端からコンクリート柱型
天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ(最低h寸法)は下表に記載の値とする。

< Aタイプ >

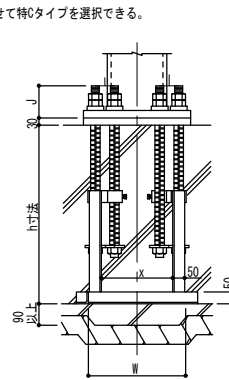


< Cタイプ ※ >

※杭頭納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。



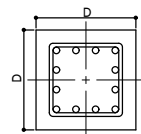
< 特Cタイプ >



4. コンクリート柱型

4. 1 形状・材質

●形状
形状は正方形とし、寸法は下表に
記載の値とする。

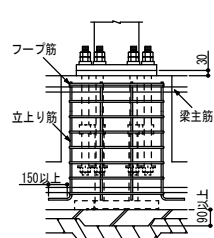


●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度
は21N/mm²以上とする。

●鉄筋
SD295 (D13, D16)
SD345 (D19, D22)

4. 2 配筋

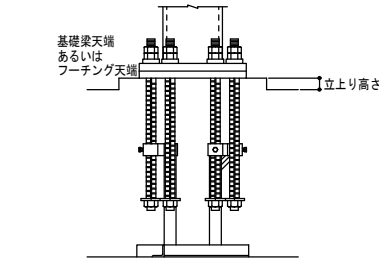
配筋仕様は下表による。



※立上り筋の頂部にはフックを設け
なくてよい。
※トップフープはダブルとし、
柱型上端近くに配置する。

4. 3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。



4. 4 特記事項 上記内容によらない場合は下記による。

採用

- ☐ 下表標準柱型寸法からの変更あり (「柱型寸法最大・最小値一覧」による)
- ☐ 下表標準配筋仕様からの変更あり
- ☐ 立上り筋に頂部フックが必要

5. 工場製作 (溶接)


■組立

●ベースプレートの中心線 (桁が線) に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法 (完全溶込み溶接)

●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開先標準 (JASS 6 鉄骨工事 2007年版より)

図	溶接 方法	適用板厚 T(mm)	ルート間隔G(mm)		ルート面R(mm)		開先角度α(°)		溶接 姿勢
			標準値	許容差	標準値	許容差	標準値	許容差	
	被覆 アーク 溶接	6~	7	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1: 45	-2.5, +0 (-5, +0)	下向き
			9	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1: 35		
	セルシ ルアーク 溶接	6~	6	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1: 45	-2.5, +0 (-5, +0)	下向き
			7	-2, +0 (-3, +0)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1: 35		

許容差: 記号+0は制限値を示す。
*2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差 (上段: 管理許容差, 下段括弧内: 限界許容差) を示す。

■ベースプレートの予熱

●気温 (鋼材表面温度) が5° C以上のベースプレートの予熱は次に示
す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚 (mm)	予熱なし	予熱なし	予熱なし
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	t ≤ 32	50 °C	50 °C	50 °C
CO ₂ ガスシールドアーク溶接	SN490B	t ≤ 32	予熱なし	予熱なし	予熱なし

■検査方法: 溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

■施工管理: 7. 本工法の施工及び施工管理参照。

6. 工事場施工

6. 1 基礎工事

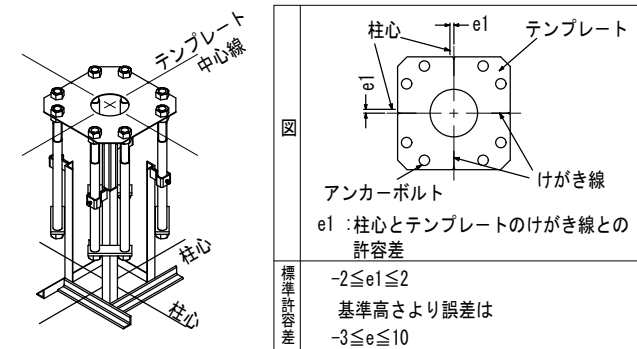
●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6. 2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト (フレーム) の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立て
を行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより
行い、標準許容差は下図による。



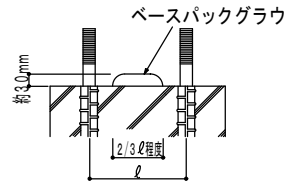
6. 3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト (フレーム) との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6. 4 建方

●レベルモルタルはベースパック
グラウト (グラウト材) を使用し
大きさは右図による。



6. 5 アンカーボルトの本締め (弛み止め)

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6. 6 ベースパックグラウト (グラウト材) の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋 (6kg) に対して、計量カップで
1.0~1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の
自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者 (元請) の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6. 2アンカーボルト据付け及び6. 6ベースパックグラウトの
注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者 (ベース
パック施工管理技術者・施工技能者) が施工を実施し、チェックシート等によ
り施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理
技術者等による。

特記事項	
------	--



一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号
株式会社 前野建築設計
管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者
一級建築士
第320204号
前野 将輝

設計担当
一級建築士
第378328号
加藤 早紀

設計担当
一級建築士
第360917号
前田 祐作

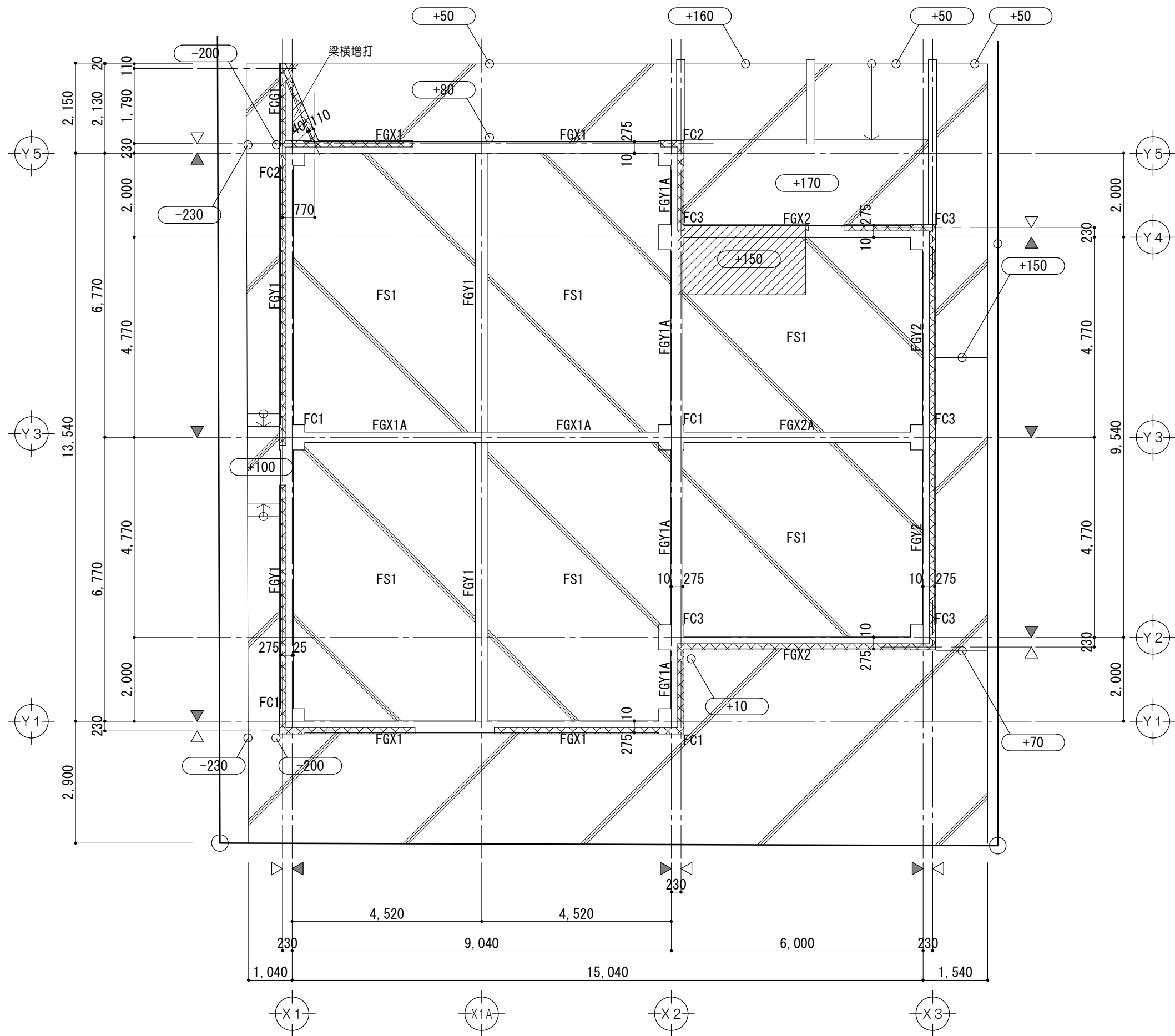
設計担当

設計担当

設計担当

法適合確認

工事名称 川越町ボランティア施設 (仮称) 建設工事 (建築工事)	設計日 R05/03/24
図面名称 柱脚標準図	図面番号 S09




凡 例	
	べた基礎 厚み、配筋はべた基礎リストによる 捨てコン50 浅層地盤改良H=1,850mm 長期: 50kN/m ² 短期: 100kN/m ² 固化材の種類・配合量は、 200kg/m ³ 程度とし、 配合試験結果を用いて決定する。
	土間コンクリート150 D10@200モチアミシングル 差筋 D10@200 砕石100 浅層地盤改良H=1,850mm 諸条件は上記による
	コンクリート立上150 天端高さ=設計GL+600 D10@200シングル (タテヨコ共)
	柱芯を示す
	壁芯を示す
	設計GLからのコンクリート高さを示す 特記なき場合設計GL+170とする

基礎伏図 1/100

※註記：スロープ廻りの形状・配筋は外構図による

特記事項	





一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号

 株式会社 前野建築設計

管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第378328号 加藤 早紀	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当	設計担当	設計担当
-------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	------	------	------

法適合確認	工事名称 川越町ボランティア施設 (仮称) 建設工事 (建築工事)	設計日 R05/03/24
	図面名称 基礎伏図	図面番号 S10
	縮尺 総尺 A1: 1/50 A3: 1/100	

べた基礎リスト							
符 号	版 厚	位 置	主 筋（短辺方向）		配力筋（長辺方向）		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
FS1	250	上 筋	D13 @200		D13 @200		べた基礎 （四辺固定）
		下 筋	D13 @200		D13 @200		

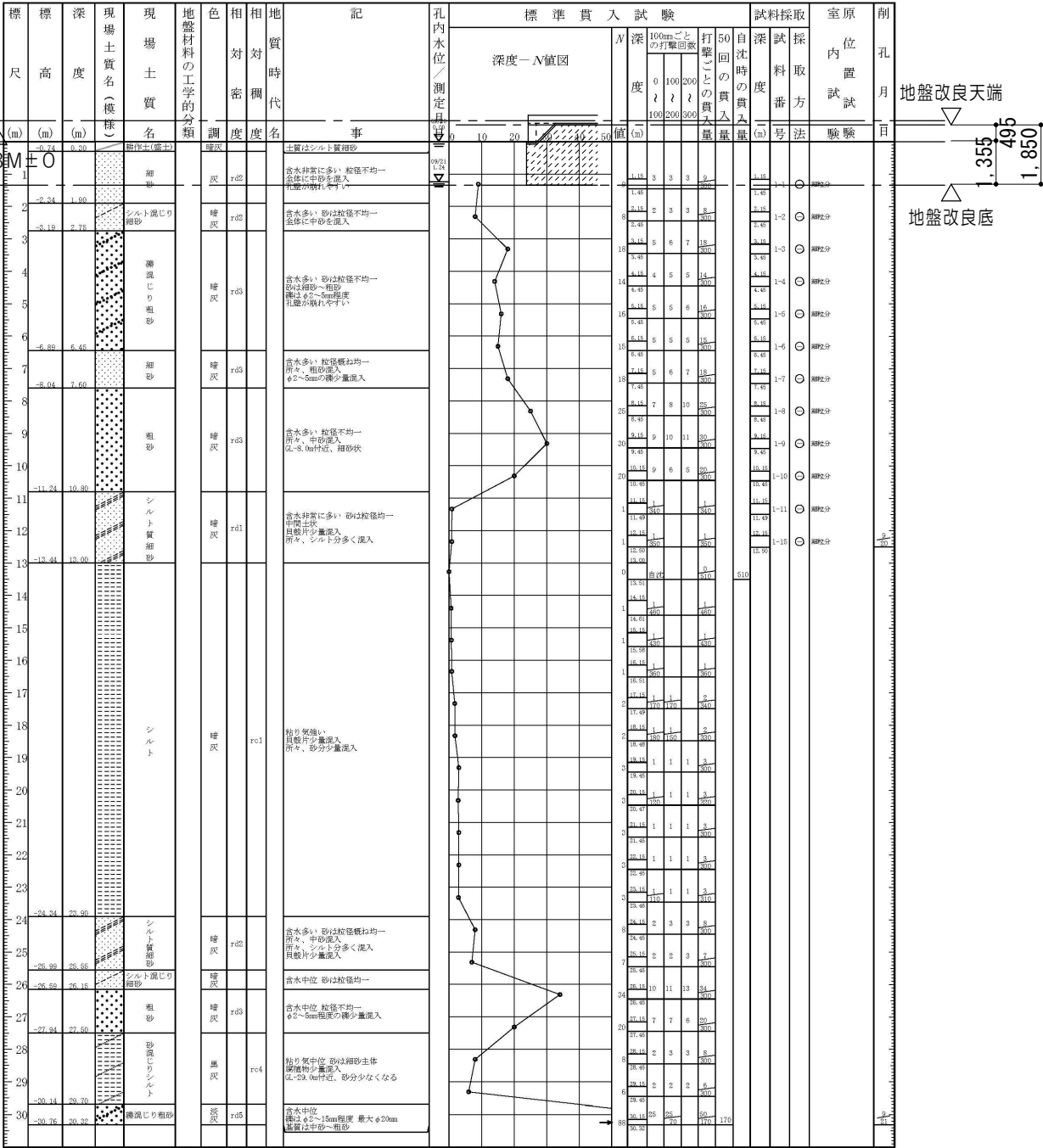
基礎梁・基礎小梁リスト 1/50					
符 号	FGX1・FGX2 FGY1A・FGY2	FGX1A・FGX2A	FGY1		FCG1
B × D	285 × 600	250 × 600	300 × 600		285 × 600
位 置	全断面	全断面	Y1・Y5通端 中 央	Y3通端	全断面
設計GL 大梁断面図					
主 筋	上端筋	2-D19	2-D19	3-D19	2-D19
	下端筋	2-D19	2-D19	3-D19	2-D19
S T P	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200		□-D10@200
腹 筋	2-D10	2-D10	2-D10		2-D10
幅止×筋	D10@1000	D10@1000	D10@1000		D10@1000

基礎柱リスト 1/50			
符 号	FC1	FC2	FC3
位 置	全断面	全断面	全断面
B × D	600 × 600	600 × 600	600 × 600
柱断面図			
主 筋	12-D16	12-D16	12-D16
HOOP	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100

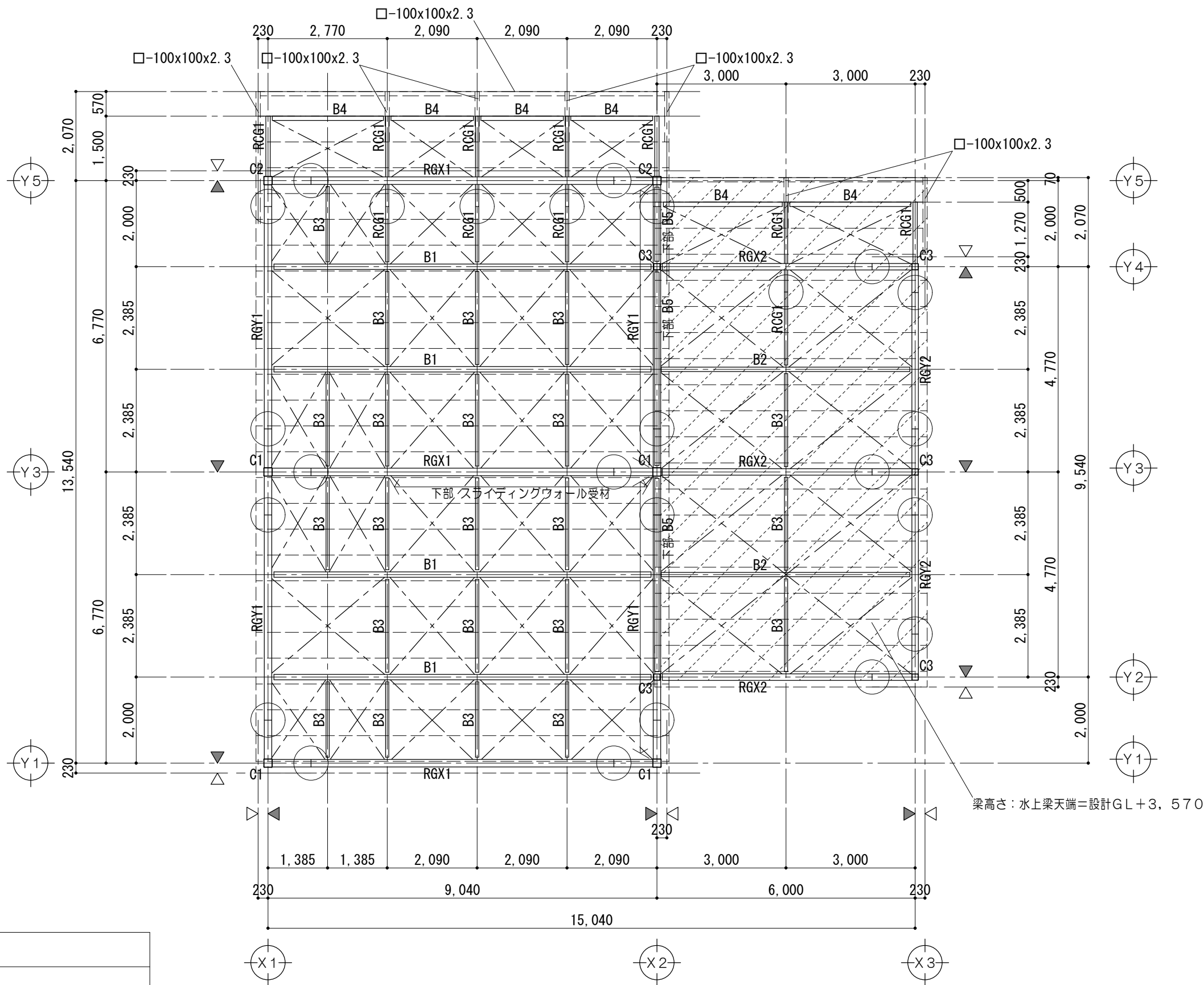
増打詳細図 1/50	

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）	
調 査 名	川越町ボランティア施設(仮称)建設工事設計業務委託
事業名 または 工事名	
調査目的及び調査対象	建築 構造物基礎

ボーリング名	No.1	調査位置	三重県三重郡川越町大字 地内	北 緯	35° 01′ 20.20″
発 注 機 関	三重県三重郡川越町	調査期間	令和4年 9月 20日 ～ 令和4年 9月 22日	東 経	136° 40′ 23.30″
調査業者名	株式会社前野建築設計 電 話 059-228-2550	主任技師	林元氣 （建築士）	現 場 代 理 人	コ ー ー 氏 （建築士）
ボーリング	振動水圧 （振動水圧）	試験機	ワイビーエム製 YBM-05DA型	ボーリング	振動水圧 （振動水圧）
孔 口 標 高	KBM -0.44m	角 度	180° 90° 0°	方 位	北 緯 35° 01′ 20.20″
総 削 孔 長	30.32m	地 質 記 載	鉛 直 90° 0°	使用機器	エンジン ヤンマー製 NFAD-8型
		ポン プ	カノボーリング V-6型		



ボーリング柱状図
※註記：地質調査KBM±0＝設計KBM－1.5



R 階梁・1 階柱伏図 1/100

凡 例	
▶	柱芯を示す
▷	壁芯を示す
---	水平ブレース HBr1:1-M16 (JIS規格品 ターンバックル付)を示す
---	母屋 C-100×50×20×2.3@606
⊕	継手位置を示す

特
記
事
項



一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号

株式会社 前野建築設計

管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者
一級建築士
第320204号
前野 将輝

設計担当
一級建築士
第378328号
加藤 早紀

設計担当
一級建築士
第360917号
前田 祐作

設計担当

設計担当

設計担当

法適合確認

工事名称

川越町ボランティア施設（仮称）建設工事（建築工事）

図面名称

R階梁・1階柱伏図

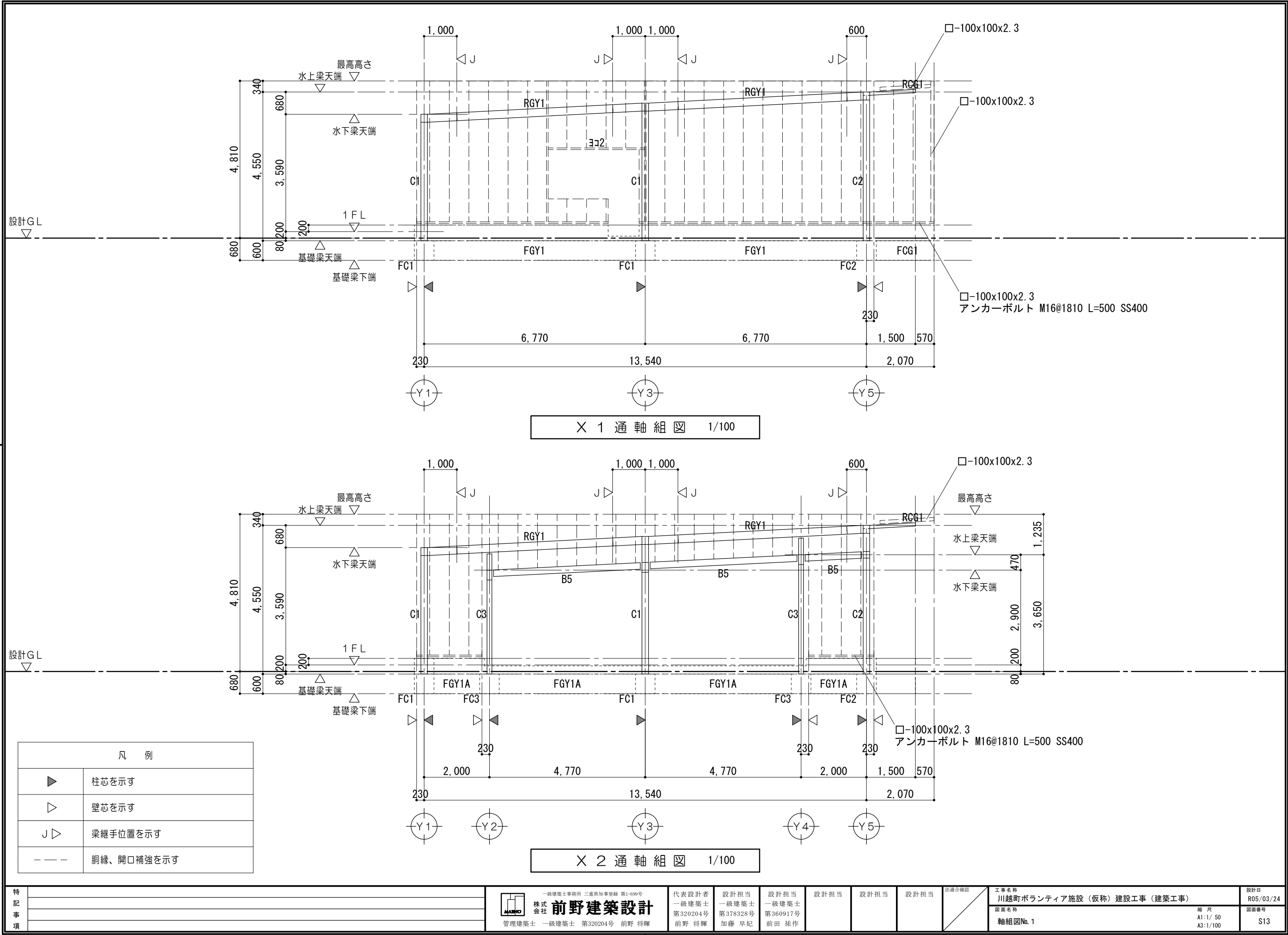
縮 尺
A1:1/50
A3:1/100

設計日

R05/03/24

図番号

S12



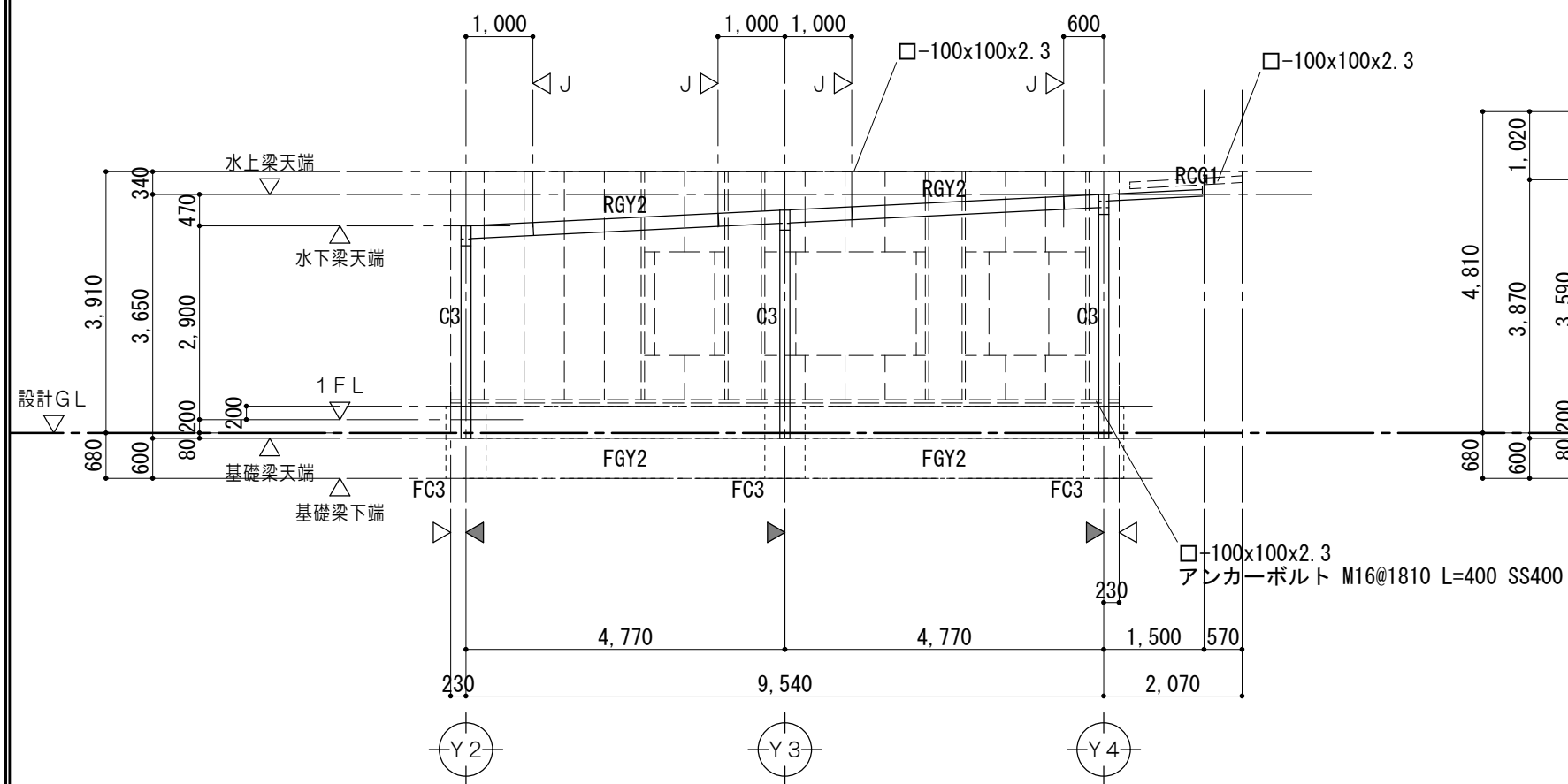
特記事項	



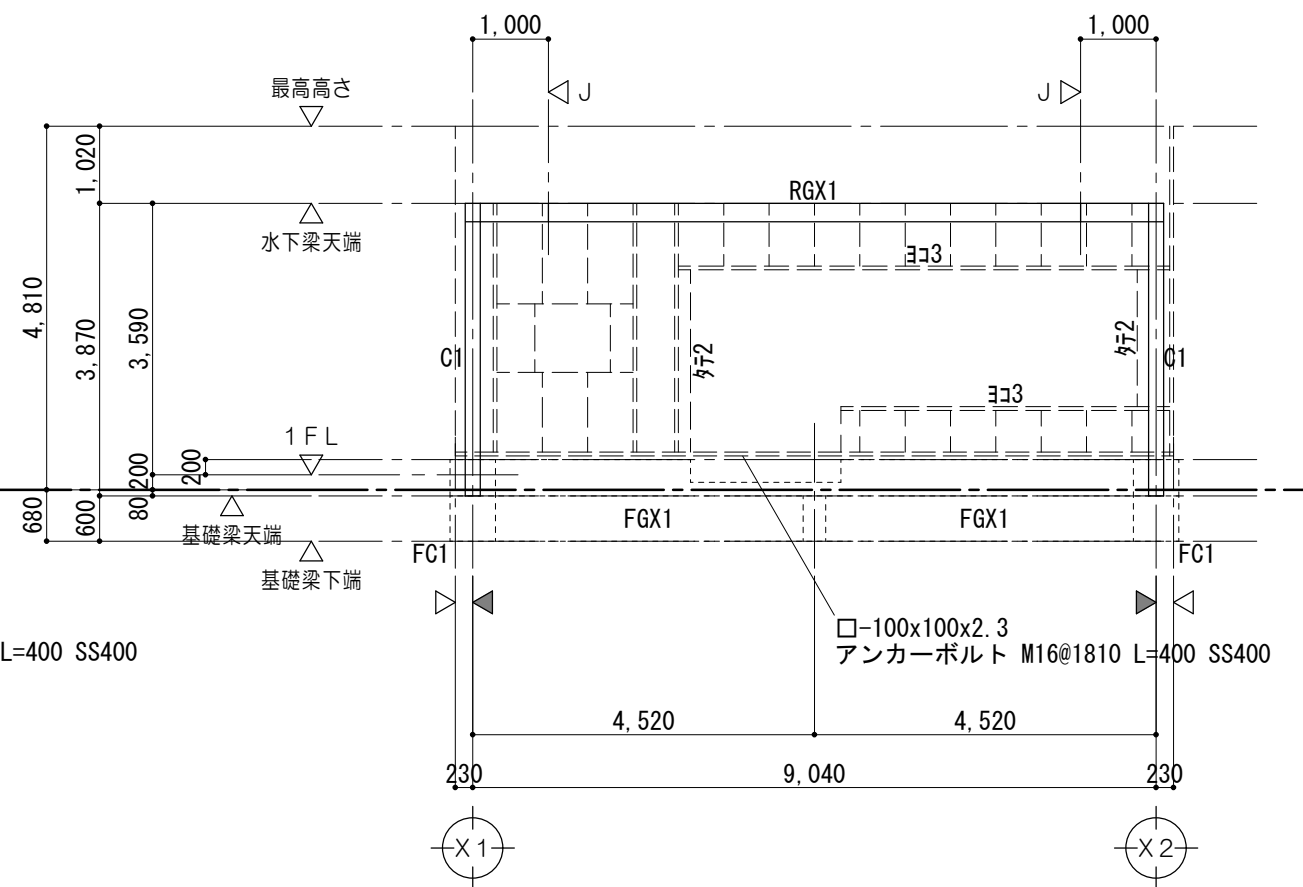
一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号
株式会社 前野建築設計
管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第378328号 加藤 早紀	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当	設計担当	設計担当
-------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	------	------	------

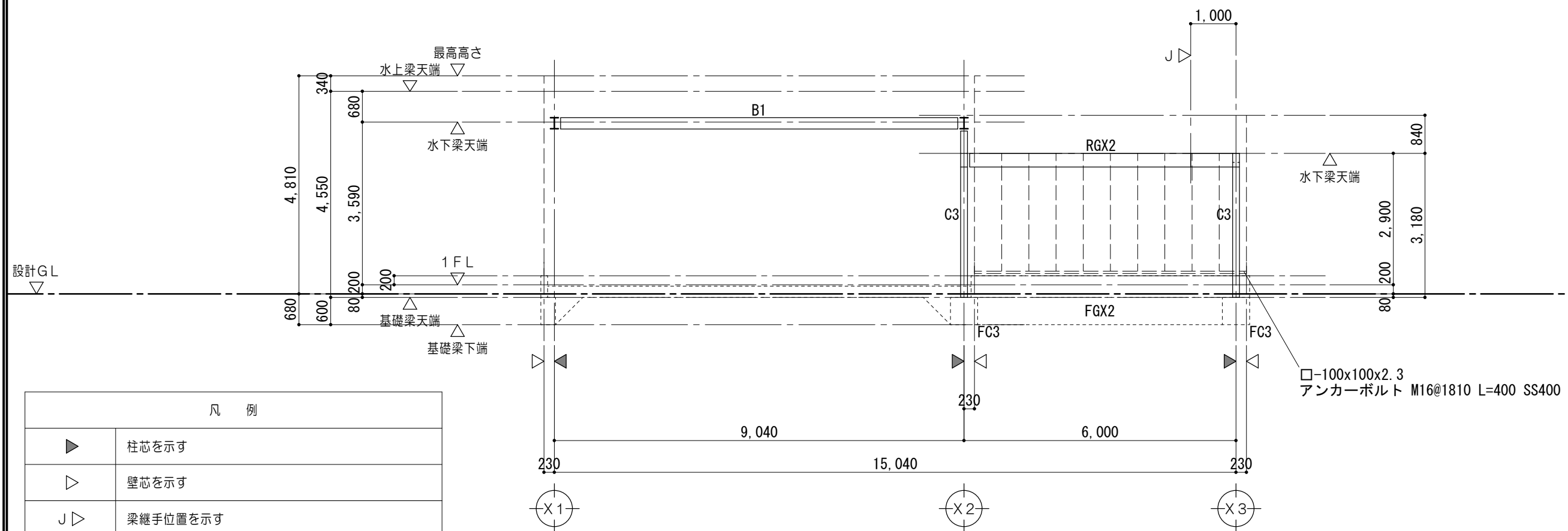
法適合確認	工事名称 川越町ボランティア施設（仮称）建設工事（建築工事）	設計日 R05/03/24
	図面名称 軸組図No. 1	図面番号 S13
	縮尺 A1:1/50 A3:1/100	






X 3 通 軸 組 図 1/100



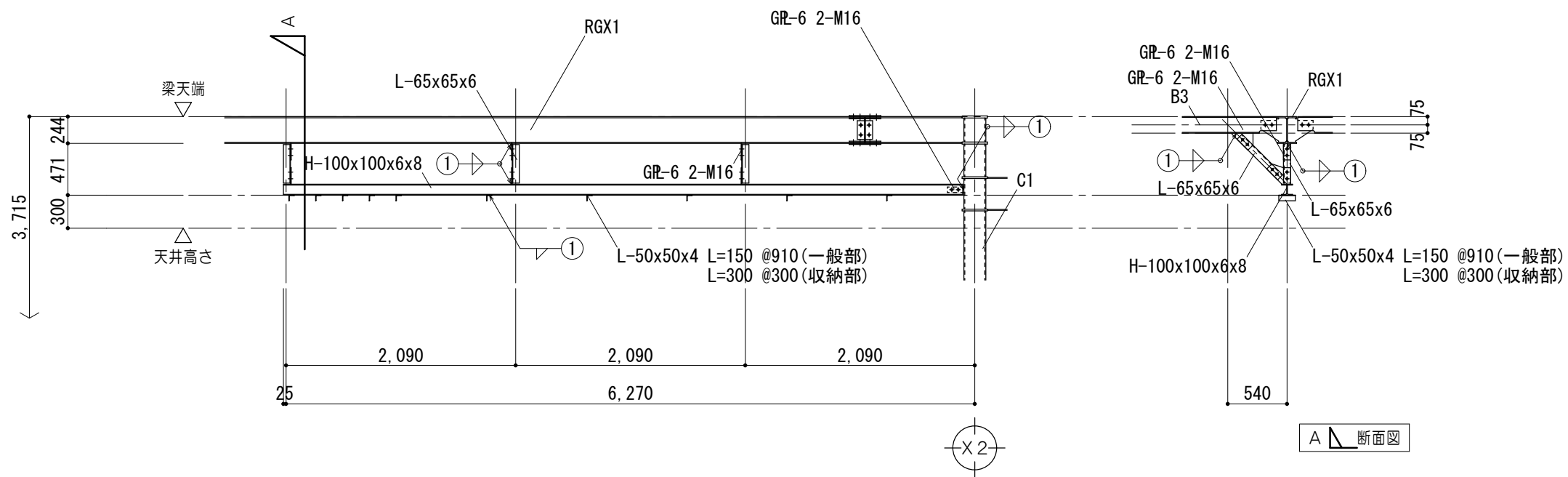
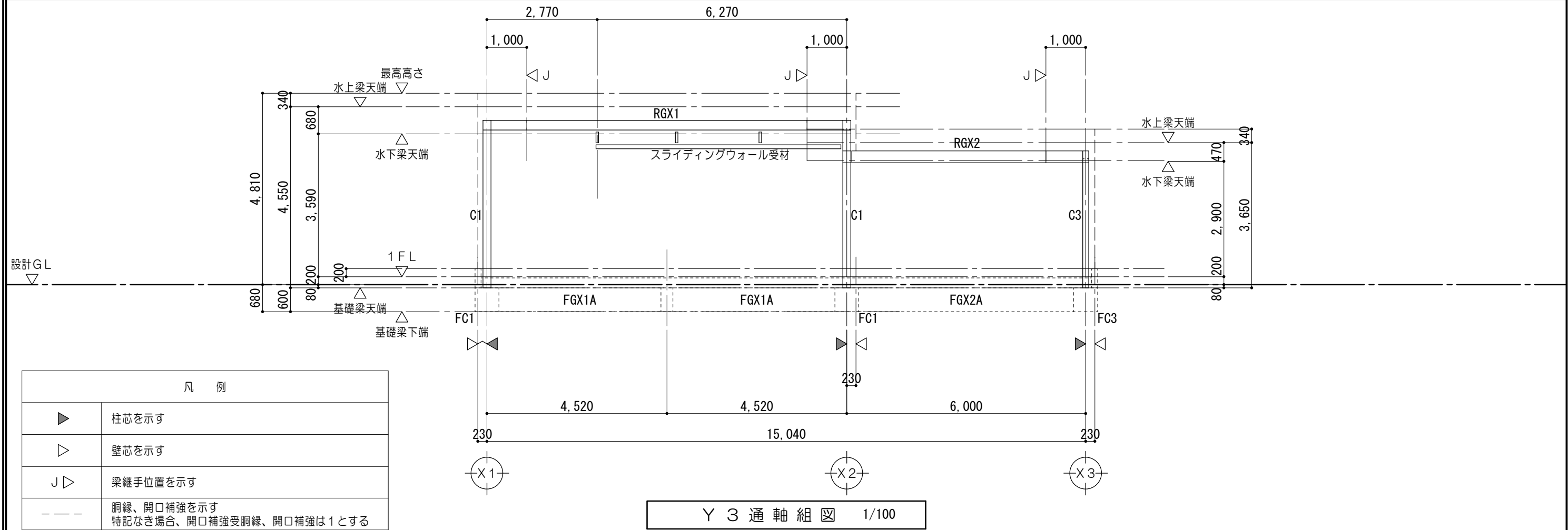
Y 1 通軸組圖 1/100



Y 2 通 軸 組 図 1/100

凡 例	
	柱芯を示す
	壁芯を示す
J 	梁継手位置を示す
— — —	胴縁、開口補強を示す 特記なき場合、開口補強受胴縁、開口補強は1とする

特 記 事 項		<div><div><div><div><div></div></div></div><div><div>MAHO</div></div></div><div>株 会 社</div><div>前野建築設計</div><div>管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝</div></div>	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号	代表設計者	設計担当	設計担当	設計担当	設計担当	設計担当	法適合確認	工事名称 川越町ボランティア施設（仮称）建設工事（建築工事）	設計日 R05/03/24
				一級建築士 第320204号	一級建築士 第378328号	一級建築士 第360917号				縮 尺 A1:1/ 50 A3:1/100	図面番号 S14	
				前野 将輝	加藤 早妃	前田 祐作						

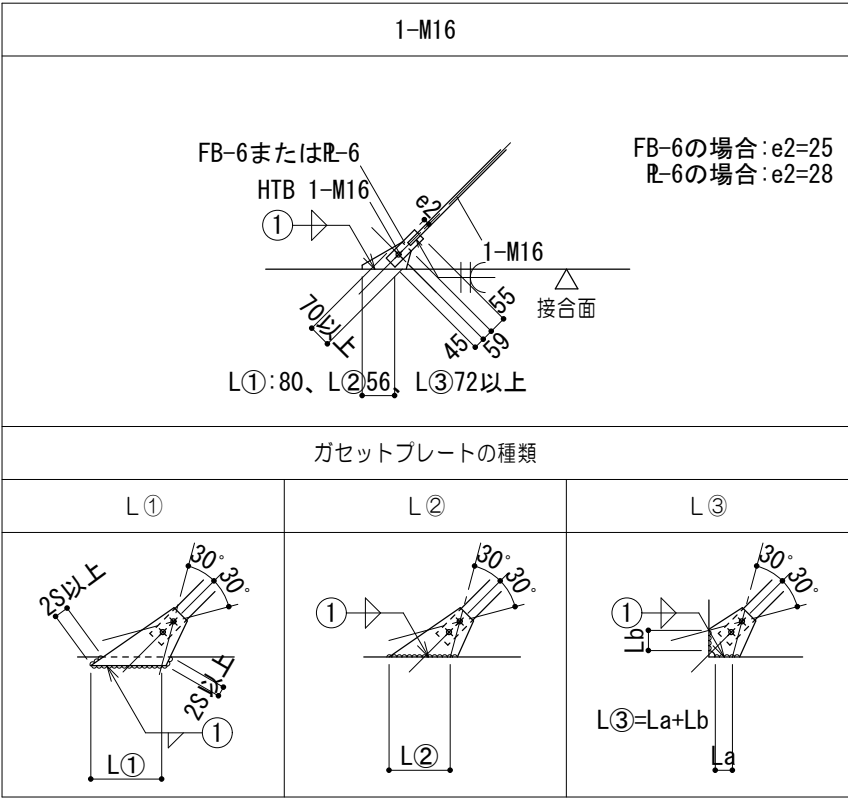


柱 リ ス ト

使用材料 角型鋼管：BCR295

符 号	C1	C2	C2
部 材	□-200x200x9	□-200x200x12	□-150x150x6
断 面			
細 長 比	$\lambda x=59.9$ 、 $\lambda y=53.4$	$\lambda x=68.1$ 、 $\lambda y=56.3$	$\lambda x=102.6$ 、 $\lambda y=102.5$
備 考			柱頭：TR-9 GR-9 2-M20 L=50
柱 脚			
ベースプレート	360x360x28 (SN490B)	360x360x32 (SN490B)	300x300x28 (SN490B)
アンカーボルト	4-M30 (SD490)	4-M33 (SD490)	4-M27 (SD490)
備 考	<参考>ベースパック 20-09V	<参考>ベースパック 20-12V	<参考>ベースパック 15-12V

ブレース接合部詳細図 1/30



大 梁 リ ス ト

使用材料 H型鋼・鋼板：SN400B
ボルト：S10T

符 号	部 材	継手接合部				備 考
		R (厚×幅×長さ)	HTB	TYPE	Pc	
RGX1	H-244x175x7x11	F 2R-9x175x290 4R-9x 70x290 W 2R-9x140x170	16-M20 L=60 4-M20 L=55	C	90	
RGX2	H-300x150x6.5x9	F 2R-9x150x290 4R-9x 70x290 W 2R-6x200x170	16-M16 L=55 6-M16 L=45	C	60	剛接合
RGY1	H-244x175x7x11	F 2R-9x175x290 4R-9x 70x290 W 2R-9x140x170	16-M20 L=60 4-M20 L=55	C	90	
RGY2	H-194x150x9x8	F 2R-9x150x290 4R-9x 70x290 W 2R-9x140x230	16-M16 L=55 6-M16 L=45	C	60	

小 梁 ・ 雑 部 材 リ ス ト

使用材料 H型鋼・鋼板：SS400、角形鋼管：STKR400
ボルト：S10T

符 号	部 材	継手接合部				備 考
		R (厚×幅×長さ)	HTB	TYPE	Pc	
B1	H-250x125x6x9	W GR- 6	2-M16 L=45	J	90	
B2	H-200x100x5.5x 8	W GR- 6	2-M16 L=40	J	60	
B3	H-150x75x5x7	W GR- 6	2-M20 L=40	K	60	R G X 2 接合部
B4	H-100x100x6x8	W GR- 6	2-M16 L=40	K	60	一般部
B5	H-200x100x5.5x 8	W GR- 6	2-M16 L=40	J	60	
RCG1	H-100x100x6x8	基端溶接				剛接合基端
		F 2R-16x100x290	16-M16 L=65	B	60	中間継手
		W 2R- 9x 50x350	4-M16 L=50			
		W GR- 6	2-M16 L=40	K	60	ピン接合
水平ブレース	1-M16	GR- 9	1-M16 L=40			J I S規格品 ターンバックル付
母屋（一般部）	C-100x50x20x2.3	W GR- 4.5	2-M12 L=40	K	50	@606 接合部：中ボルト
母屋（片持材）	□-100x100x2.3	W GR- 4.5	2-M12 L=130	K	50	@606 接合部：中ボルト
胴縁（一般部）	C-100x50x20x2.3	W GR- 4.5	2-M12 L=40	K	50	@606 接合部：中ボルト
胴縁（出隅部）	□-100x100x2.3	W GR- 4.5	2-M12 L=130	K	50	接合部：中ボルト
開口補強受胴縁1	□-100x100x2.3	W GR- 4.5	2-M12 L=130	K	60	ヨコ開口補強1、2受材 接合部：中ボルト
開口補強受胴縁2	□-100x100x4.5	W GR- 6	2-M16 L=40	M	60	ヨコ開口補強3受材
ヨコ開口補強1	C-100x50x20x2.3	W GR- 4.5	2-M12 L=40	K	60	部材長L ≤ 2.4m 接合部：中ボルト
ヨコ開口補強2	□-100x100x2.3	W GR- 4.5	2-M12 L=130	K	60	部材長L ≤ 4.2m 接合部：中ボルト
ヨコ開口補強3	□-200x100x4.5	W GR- 6	2-M16 L=40	M	60	部材長L > 4.2m 鉛直方向強軸
タテ開口補強1	C-100x50x20x2.3	W GR- 4.5	2-M12 L=40	K	60	開口巾W ≤ 4.2m 接合部：中ボルト
タテ開口補強2	□-100x100x2.3	W GR- 4.5	2-M12 L=130	K	60	開口巾W > 4.2m 接合部：中ボルト

特記事項	

一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-699号



株式会社 前野建築設計

管理建築士 一級建築士 第320204号 前野 将輝

代表設計者 一級建築士 第320204号 前野 将輝	設計担当 一級建築士 第378328号 加藤 早紀	設計担当 一級建築士 第360917号 前田 祐作	設計担当	設計担当	設計担当	設計担当
-------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	------	------	------	------

法適合確認	工事名称 川越町ボランティア施設（仮称）建設工事（建築工事）	設計日 R05/03/24
	図面名称 部材リスト	図面番号 S17
	縮 尺 A1:1/15.25 A3:1/30.50	

